

株式会社カネゲン

2021年度環境活動レポート

(2020年7月～2021年6月)



作成日： 2021年8月30日

目次

1、環境方針		P. 2
2、登録事業所の概要		P. 2
3、環境経営システム組織図		P. 3
4、主な環境負荷の実績		P. 4
5、環境目標及びその実績		P. 4
6、環境活動の取り組み計画と評価及び次年度の取り組み内容	・	P. 5
7、環境関連法規制等の遵守状況		P. 6
8、本業に関わる取り組みを紹介		P. 6
9、代表者による評価		P. 7

環境方針

<環境基本理念>

株式会社カネゲンは、相互扶助の原理に基づいて三方よしの経営を行い、社員一人ひとりが地球環境の保全向上が人類共通の最重要課題であることを認識し、環境負荷の継続的低減及び持続的に発展できる社会の実現に寄与すべく全社一丸となって取り組みます。

<環境方針>

- 1、 当社の事業活動を通じて、二酸化炭素、産業廃棄物、使用総水量の削減に努めます。また、省資源、省エネルギーにつながる設備投資を継続的に検討・実施します。
- 2、 当社の事業活動を通じて、エコマーク商品やグリーン商品等、環境にやさしい商品の使用、販売を積極的に実施します。また取引先企業に対して環境経営の啓蒙活動をいたします。
- 3、 環境関連の法規制や遵守すべき事項を、企業の社会的責任として遵守します。
- 4、 全従業員に対して、この環境方針の周知徹底を図るとともに、技術的・経済的に可能な範囲で環境活動計画を設定し継続的に維持・改善を行います。また環境活動を公開します。

制定日 : 2013年1月8日

株式会社カネゲン 代表取締役社長

兼杉裕介

□登録事業所の概要

- (1) 事業所名及び代表者名

株式会社カネゲン

代表取締役社長 兼杉 裕介

- (2) 所在地

本社： 埼玉県さいたま市北区宮原町4丁目84番

盆栽支店： 埼玉県さいたま市北区盆栽町458

文具のプラス浦和店： 埼玉県さいたま市浦和区高砂1-12-1 コルソビル4F

- (3) 環境管理責任者氏名及び担当者連絡先

責任者 管理部部長 和田 賢 TEL：048-667-4111

担当者 盆栽支店長 細井 英夫 TEL：048-871-5514

- (4) 事業内容（認証・登録の範囲）

文具・事務用品 卸売・小売

- (5) 事業の規模

年商（2021年度） 21.0億円

	本社	支店	浦和店
従業員	37名	20名	2名
延べ床面積	1386m ²	1337m ²	92m ²

- (6) 事業年度 7月～翌年6月

- (7) 対象範囲（認証・登録範囲）

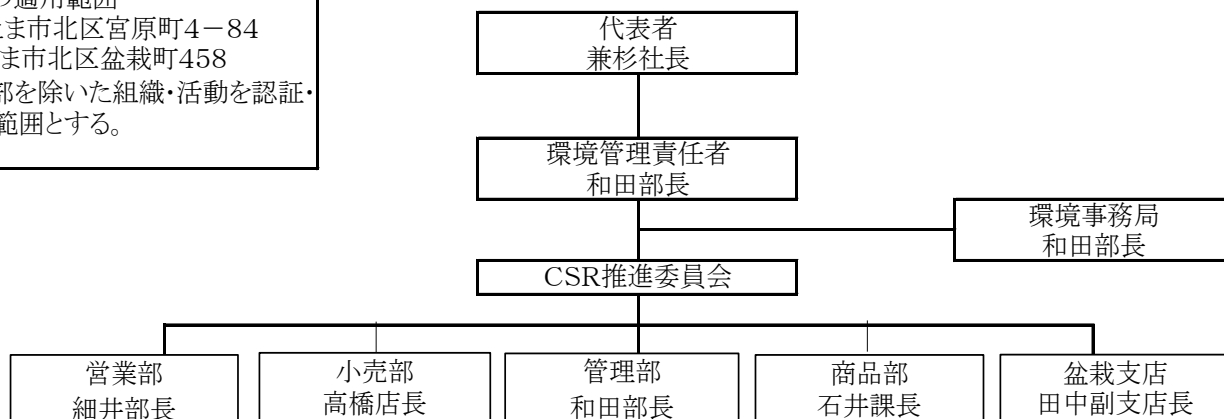
小売部を除いた本社・盆栽支店、全活動を認証・登録範囲とする。

□環境経営システム組織図

株式会社カネゲン

環境経営システム組織図

認証・登録の適用範囲
住所:さいたま市北区宮原町4-84
さいたま市北区盆栽町458
活動:小売部を除いた組織・活動を認証・登録範囲とする。



環境経営システム 役割・責任・権限表

	役割・責任・権限
代表者(社長)	・環境経営に関する統括責任。 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備。 ・環境管理責任者を任命。 ・環境方針の策定・見直し及び全従業員へ周知。 ・環境目標・環境活動計画書を承認。 ・代表者による全体の評価と見直しを実施。 ・環境活動レポートの承認。
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理。 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認。 ・環境目標・環境活動計画書を確認。 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告。 ・環境活動レポートの確認。
CSR推進委員会	・CSRへの取り組みに関する企画立案。 ・CSR取り組み方針や施策などの浸透を図る。 ・CSR取り組み計画の進捗管理、管理体制の構築。 ・CSR社員教育・研修の実施。 ・CSR関連情報の収集と社内外への情報発信、啓発活動の推進。
環境事務局	・環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局。 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施。 ・環境目標・環境活動計画書原案の作成。 ・環境活動の実績集計。 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成。 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施。 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口。 ・環境活動レポートの作成、公開。(事務所に備付けと地域事務局への送付)
部門長	・自部門における環境経営システムの実施。 ・自部門における環境方針の周知。 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施。 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告。 ・特定された項目の手順書作成及び運用管理。 ・自部門の特定された緊急事態への対応のための手順書作成、テスト、訓練を実施、記録の作成。 ・自部門の問題点発見、是正、予防処置の実施。
全従業員	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚。 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加。

□主な環境負荷の実績

項 目	単位	2014年度 2013/7-2014/6	2017年度 2016/7-2017/6	2018年度 2017/7-2018/6	2019年度 2018/7-2019/6	2020年度 2019/7-2020/6	2021年度 2020/7-2021/6
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂ /	76,577	62,186	62,462	65,806	60,533	65,158
廃棄物排出量	トン/年	—	48	45.63	46.67	39.08	35.80
一般廃棄物排出量	トン/年	—	3	3.35	3.11	2.39	2.72
リサイクル廃棄物排出量	トン/年	—	44	42.27	43.56	36.69	33.08
リサイクル率			1	92.7%	93.3%	93.9%	92.4%
産業廃棄物排出量	トン/年	—	0	0.00	0.00	0.20	0.60
総排水量	m ³ /年	407	342	384	381	372	383

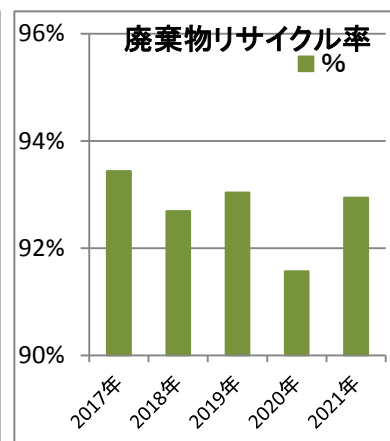
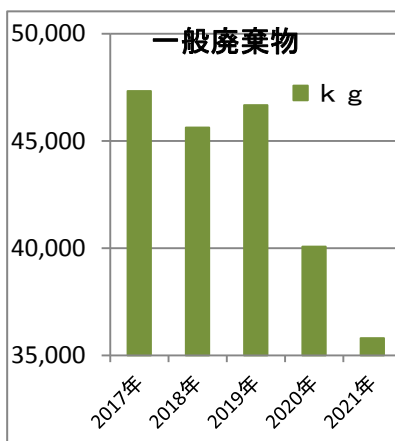
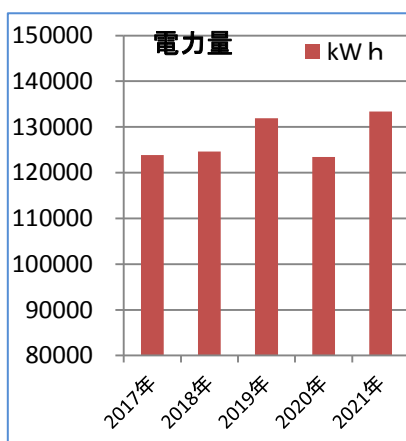
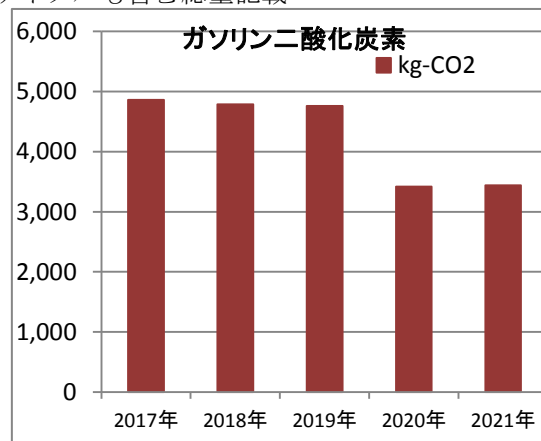
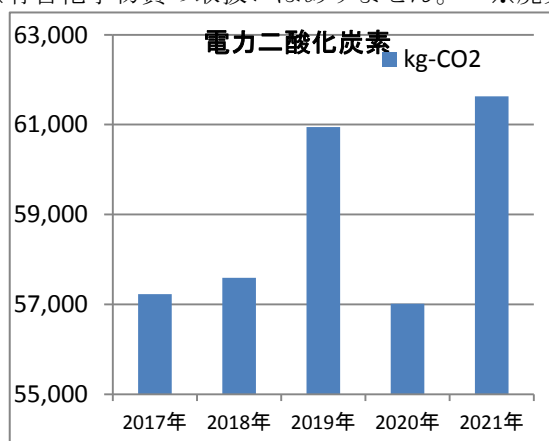
※廃棄物排出量に関しては基準年度は記録しておりませんでした。※廃棄物排出量は最終処分量にて記載

□環境目標及びその実績

項 目	年 度	2014年度 2013/7-2014/6	2019年度 2018/7-2019/6	2020年度 2019/7-2020/6	2021年度 2020/7-2021/6		2022年度 2021/7-2022/6
		基準年度	(実績) 基準年度比	(実績) 基準年度比	(目標) 基準年度比	(実績) 昨年対比	(目標) 基準年度比
電力の二酸化炭素 排出量削減	kg-CO ₂	61,522	60,949 99%	57,018 93%	56,600 92%	61,634 108%	55,985 91%
ガソリンの二酸化炭素 排出量削減	kg-CO ₂	6,428	4,761 74%	3,419 53%	5,913 92%	3,437 101%	5,849 91%
液化石油ガスの二酸化炭素	kg-CO ₂	115	95 83%	95 83%	106 93%	88 92%	107 92%
二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	68,064	65,805	60,533	62,619	65,159	61,941
一般廃棄物の削減	(Kg/年) 比率による想定値	49,657	46,266 —	39,078 —	46,181 93%	35,701 91%	45,684 92%
産業廃棄物の適正処分	(Kg/年)	0	0 —	200 —	300 %	300 %	600 %
節水	(m ³ /年)	407	381 94%	372 91%	383 94%	383 103%	379 94%

※廃棄物排出量に関しては基準年度は記録しておりませんでした。

※有害化学物質の取扱いはありません。 ※廃棄物はリサイクルも含む総量記載



□環境活動の取り組み計画と評価及び次年度の取組み内容

取り組み計画	達成状況		単位 基準年度比	評 価（結果と次年度の取組み）
電力の削減 ・事務所推奨設定温度推進 （冷房28℃ 暖房20℃） ・不要照明の消灯を促進 ・機器類未使用時のOFF習慣 ・LED電球への変更 ・節電・クールビズ運動推進 ・電力削減手順書の作成	基準年度 目標 実績	69,912 65,018 57,712	kg-CO2 93% 83%	継続して夏場の倉庫内空調使用前にファンにて 空気循環の実施と不要照明消灯の実施。 新型コロナ対応で事務スペースの分散、換気優 先の影響で、空調・照明の使用が増加傾向 早めの空調OFFや、社員不在場所の照明OFF は継続実施。残業も減らせている。 テレワークの促進
ガソリン使用量の削減 ・エコドライブ運動展開 ・アイドリングストップ ・車利用機会の削減 ・冷房の控えめ使用	基準年度 目標 実績	6,428 5,978 3,262	kg-CO2 93% 51%	エコ運転推進の運転日誌を継続実施。 公共交通機関利用を促進。 同乗人数や荷物量の記録を確認し、車両の 適切度確認。 月1回空気圧点検継続。 面会商談する機会も減少傾向。Web商談推進
廃棄物のリサイクル率UP ・分別廃棄の実施 ・廃棄物削減方法の検討 ・分別処理場の見学 ・巻き芯ゴミ回収エコ活動継続 ・裏紙使用・PPC用紙使用量削減 ・マイ箸・マイカップ・マイ水筒運動	基準年度 目標 実績 前年比	49,657 46,678 36,402	kg 94% 73%	紙の分別意識が下がってきていると思われ 紙用廃棄BOXや厚紙・ビニール等の BOXをを新しく作成。 一同に集まる会合も減り、紙コップ等の 使用も無くなる。 分別処理場の見学が暫く出来ていないの で、実施して意識を高める活動を進める。
産業廃棄物(廃プラ)の適正処分	基準年度 目標 実績	— 300 600	kg % %	産廃分別が曖昧になり、定期的に産廃収集 エリアの整理を実施し整理出来ている。
省資源 ・ペーパーレスの取組み ・使用済み用紙、裏紙の活用		— —		管理表類の印刷廃止・使用済FAX用紙有効 利用は、継続して進められている。 電子化知識の収集と促進
節水 ・節水の呼び掛け、POPの掲示 ・節水対策 ・水漏れチェック	前年 目標 実績	381 377 384	m ³ 99% 101%	前年より節水出来ていたが、貯水槽清掃 に大量の水を使用した為、例年より 多くなっている。
本業に関わる環境への配慮 ・売上に対する事業所別 準社員人件費比率 （本社・盆栽） 運賃荷造費比率 （本社・盆栽） 包材費比率 （本社・盆栽） ・適正在庫比率の維持 （本社・盆栽） ・得意先への納品率UP （本社・盆栽）	目標 実績 目標 実績 目標 実績 目標 実績 目標 実績	本社 盆栽 1.15 1.70 1.24 1.85 1.40 1.50 1.56 1.78 0.16 0.10 0.24 0.15 50.0 55.0 42.9 52.8 96.0 99.4 97.63 99.01		作業効率のアップ及び物流に係るコスト低 減により、環境への配慮を継続して進め 効率化を意識し、業務に合わせた社内レイ アウト変更や、出荷方法の改善・運賃交渉 等、定期的に実施しており、毎月売上に対 する数値化を行いチェックが出来ている。 また、棚卸実績データによる在庫の適正化 も半年毎に確認している。 得意先別分析と効率の悪い得意先の対応策 を検討して行く。
総括（結果と今後の方向） ・継続して本業の改善を中心に実施中であるが、新型コロナの影響も当然有り、受注規模が少なくなっている 事で効率は逆に悪くなっていると思われ、思うような効果が出せていない。 効率化を図っていく事に重 点を置いて改善Wをすすめている状況。				

※廃棄物の実績集計は2013年度途中から実施した為、基準年度数値は未記入。

※二酸化炭素の排出係数は、東京電力の2018年度の実排出係数0.462kg-CO2/kWhを使用しました。

□環境関連法規制等の遵守状況

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（金属くず、廃プラ、廃ガラス、廃油等）
資源有効利用促進法	リサイクル法
グリーン購入法	国・その他公共団体、地方公共団体：努力義務、国民：責務のみ
下水道法	公共下水道を使用
労働安全衛生法	職場における労働者の健康と安全を確保し、快適な作業環境をつくる
フロン排出抑制法	業務用空調設備の定期点検

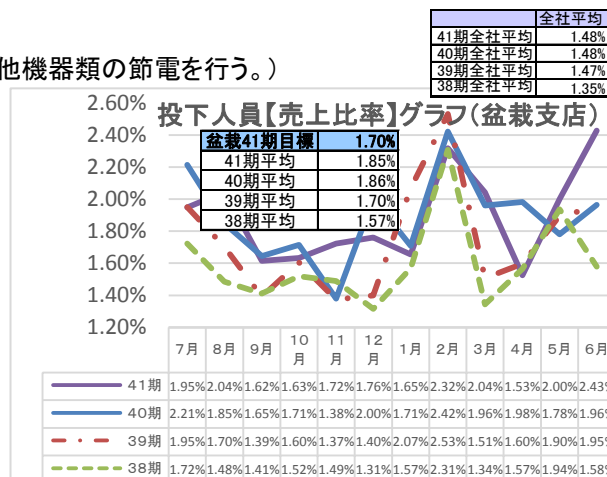
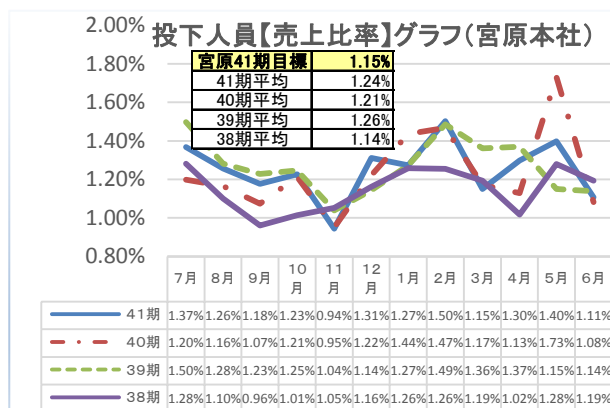
※廃棄物処理法遵守については、収集運搬者・処分業者との契約済、マニフェスト伝票（A票～E票）管理済、産業廃棄物管理票に関する報告書提出済、産業廃棄物置場の設置と看板表示済。

※過去5年間、環境関連法規制等への違反・訴訟及び環境に関する外部からの苦情はありませんでした。

※環境関連法規制等の遵守状況の定期評価・環境法規制等の逸脱はありませんでした。

□本業に関わる取り組みを紹介

準社員投下人員比率推移（作業の効率化を図り、照明他機器類の節電を行う。）



入荷検品システム構築による最低限のパソコン台数に改善。



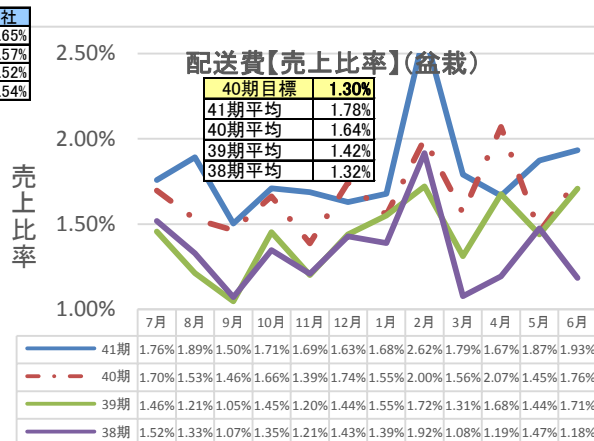
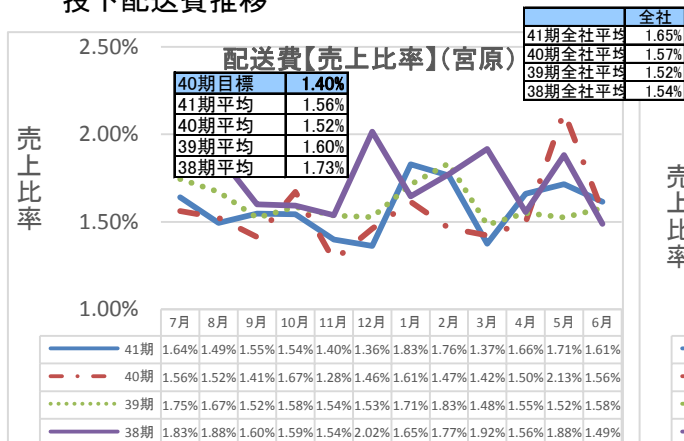
消費電力の大きいデジタルピッキングシステムを撤去し、消費電力の少ないHTピッキングに変更



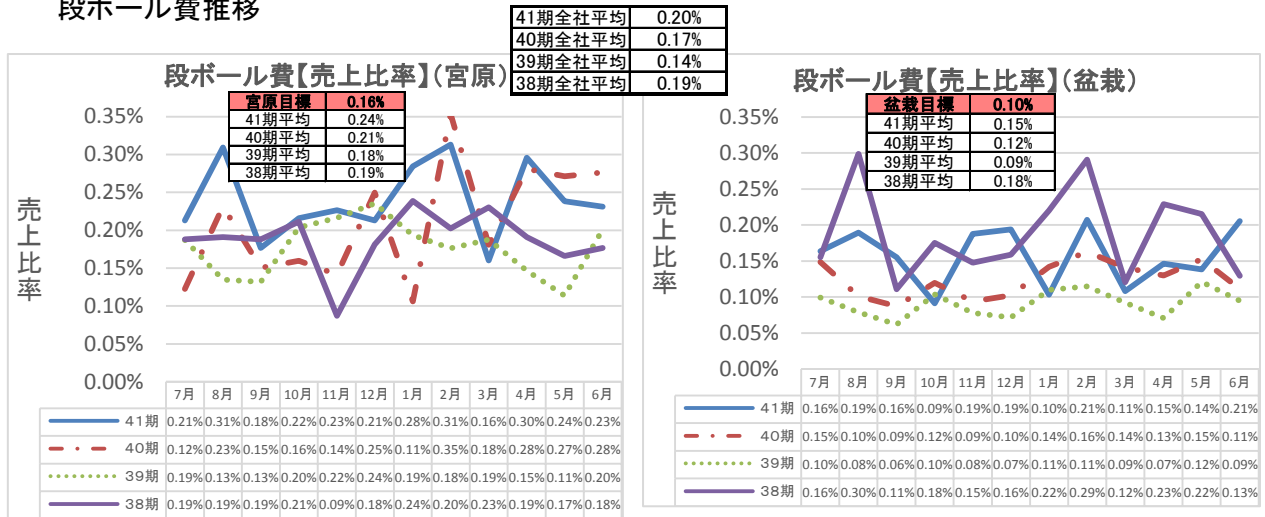
コロ車による先入れ先出し効率化

運賃荷造費比率推移（物流効率のUPを図り、包材・ガソリン等使用削減を行う）

投下配送費推移



段ボール費推移



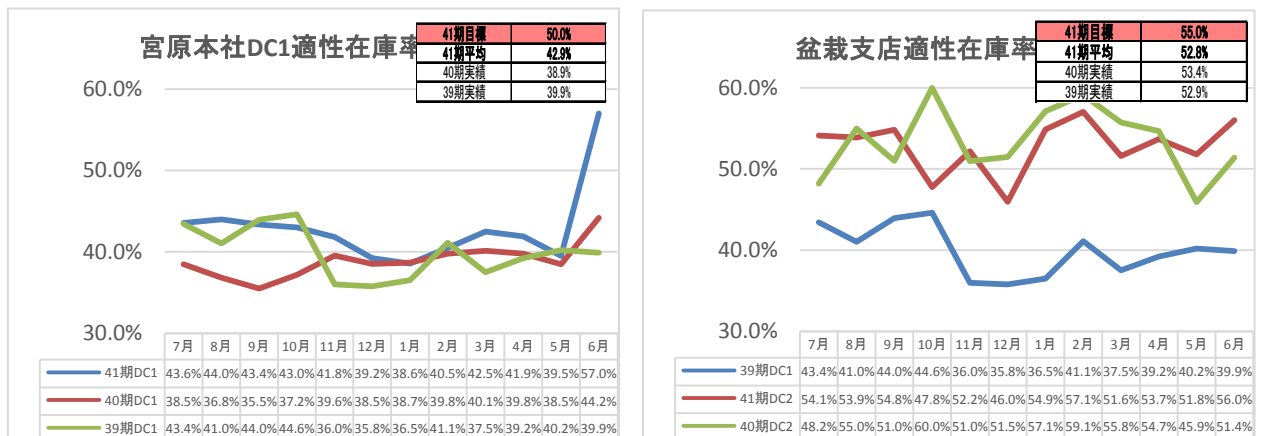
納品率推移(在庫の適正管理を行うことで、運送回数の削減を行う)

41期納品率集計

本社	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	平均	発注ミス除外	目標
納品率	97.63%	96.41%	97.28%	97.56%	98.85%	94.95%	97.90%	98.85%	98.16%	96.10%	96.83%	97.72%	97.35%	97.63%	96.0%
当社欠品	1.06%	2.24%	1.22%	1.14%	0.66%	0.73%	1.18%	0.66%	1.41%	3.02%	1.54%	0.57%	1.29%		
定番外発注	1.20%	1.31%	1.40%	1.18%	0.45%	1.16%	0.80%	0.44%	0.35%	0.64%	1.20%	1.57%	0.98%		
メーカー欠品	0.09%	0.03%	0.09%	0.12%	0.04%	0.04%	0.11%	0.03%	0.05%	0.21%	0.38%	0.13%	0.11%		
得意先発注ミス	0.02%	0.00%	0.00%	0.00%	0.01%	3.114%	0.008%	0.02%	0.03%	0.02%	0.04%	0.00%	0.27%		

盆栽	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	平均	発注ミス除外	目標
納品率	91.82%	88.90%	93.27%	90.14%	93.74%	91.76%	95.05%	94.10%	93.11%	95.44%	91.27%	95.66%	92.86%	99.01%	99.40%
当社欠品	0.01%	0.04%	0.04%	0.01%	0.02%	0.02%	0.01%	0.00%	0.00%	0.02%	0.02%	0.01%	0.02%		
定番外発注	0.83%	0.19%	0.07%	0.02%	0.01%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%	0.09%		
メーカー欠品	1.14%	0.77%	1.05%	0.92%	0.25%	0.34%	0.58%	0.70%	0.94%	0.98%	1.80%	1.11%	0.88%		
得意先発注ミス	6.20%	10.09%	5.57%	8.92%	5.98%	7.88%	4.36%	5.20%	5.95%	3.56%	6.91%	3.22%	6.15%		

適正在庫率推移



口代表者による評価

エコアクション21の活動も7年を経過いたしました。コロナの影響により達成、未達成と取組内容により結果が大きく分かれた結果となりました。感染対策と環境対策の両立を模索した一年だったと思います。来年度へ向けても、感染対策との両立を模索しながら、取組を活性化させていきたいと思います。また本業の改善にもつながる適正在庫(不良在庫削減)維持には、積極的に取組しっかりとPDCAが、機能するようにしていきたいと思います。今後も現在の結果に満足することなく更なる意識の向上を図り、環境負荷低減、無駄資源使用削減、自然環境保全に向けて努力していきたいと思います。

株式会社カネゲン 代表取締役社長
兼 杉 裕 介